

# 京町家改装カフェの空間構成と魅力に関する研究

キーワード：空間印象、京町家、リノベーション、カフェ、間取り

## 1. 研究の背景と目的

本研究では、京町屋改装カフェ（以下、改装カフェ）の空間構成を把握し、利用客と店舗経営者の両者の視点から、京町家空間の魅力を明らかにすることを目的とした。とくに、京町家の価値ともされる「京都の（京都らしい）」あるいは「伝統文化」という印象や属性に起因する利点ではなく、物質的な構造・空間特性に起因する魅力に注目した。改装カフェ店内を構成する間取り・内装の意匠を理解し、空間構成の特性および印象を理解することは、店舗の個性（魅力）を明確にして、他店と差異化を図ることに有益であると考えた。また、カフェ出店の意向をもつ人々に対して、抽象的な概念であるイメージや雰囲気に加えて、出店のための改修工事や住居としての利用などを考慮した場合の実用的なメリットを示すことにより、京町家を選択するモチベーションを高められると考えた。これらの理由から、京町家の改修の担い手を拡大し、継続的な利用の促進に寄与するために研究を行った。

## 2. 調査の方法

本研究では、（1）改装カフェの構成要素に関する実態調査、（2）空間の構成要素および店内の印象に対する評価の分析、（3）経営者が京町家を利用する要因に関する分析、を実施した。（1）では、京都市内の京町家を改装したカフェ 52 店舗を対象として、内観調査により、伝統的な京町家の間取りを構成する要素などの利用の傾向を調べた。（2）に関しては（1）の調査結果にもとづき、異なる空間構成をもつ 4 店舗を選定し、利用客を対象としたアンケート調査を実施した。魅力に感じられる構成要素や、店内の印象に関して、選択式・自由記述式を組み合わせた質問によって評価を求め、比較を行った。（3）に関しては、（1）の対象店舗から了承を得られた 42 店舗の経営者を対象に、対面式のヒアリングを行った。出店のための物件選びや改装方針、店の空間コンセプトについて尋ね、京町家の構造・空間特性との関係を考察した。

## 3. 調査の結果・考察

（1）の内観調査では、京町家の間取りの特徴とされる「通り庭」「続き間」「坪庭・奥庭」はいずれも 7～8 割の店舗で確認されたが、庭以外は、従来の形状・用途が維持されたものは僅かであった。部分的に伝統的な構成要素が認められても、オープンキッチンなど現代的なスタイルを織り交ぜた改装が半数を占めた。

（2）の店内の印象・魅力の評価分析の結果、坪庭・奥庭や座敷に対する評価が高いことなどが示された。また、構成要素の有無や配置により店内の印象には差異があるが、いずれの店舗も他店にはない魅力を形成し、評価を得ていることが明らかになった。一方、「京都」や「伝統」に関連する印象は抽出されなかった。以上から、本来は均質な空間構成をもつ京町家が、改装によって個性を高められる可能性が示された。

（3）の経営者ヒアリングからは、経営者の 8 割が出店時の物件探しにおいて、「京町家であること」を当初の条件とはしていなかった点などが明らかになった。しかし、彼らが望む改装の仕様や店内コンセプトの実現には、京町家の間取りや軸組構造などに起因する利点があり、事例と合わせてその活用が確認された。

## 4. 結論

京町家の構造と空間構成には、経営者の京町家に対する意識に関わらず、カフェに改装する利点があり、利用の動機を与える特性があると考えられた。また、伝統的な要素が多様な形態・組合せで維持されることで店舗独自の魅力が成立しており、京町家の継続的な利用に関して多くの知見が得られた。